

# ライフサイエンスセミナー

## ～がんと炎症 研究の最前線～

**[参加無料]**

定員 150名

日本人の2人に1人がかかり、3人に1人が亡くなってしまう癌。また、癌も含まれ多くの罹患者がいる炎症性疾患。その治療法や検出方法について様々な研究が行われております。本セミナーでは、がん、炎症性疾患治療の最前線として、がん幹細胞や炎症誘導機構に関する革新的な研究をご紹介します。

**日時**

平成28年**8月17日(水)** 14:30～17:00

**会場**

FMI国際拠点【北海道大学構内】  
(札幌市北区北21条西11丁目 地下鉄南北線北18条駅より徒歩15分)

### プログラム

#### 講演① がん幹細胞を標的とした治療戦略 (14:30-15:30)

慶應義塾大学医学部 先端医科学研究所  
遺伝子制御研究部門 教授 佐谷 秀行氏

【概要】がん組織は、全てのがん細胞の起源となるがん幹細胞と、がん幹細胞から造られる大多数のがん細胞の二群から構成されており、正常組織に類似した階層性構造を持つ。がん幹細胞は既存の治療に抵抗性を示すことから、これらの細胞を破壊することががんの根治を目指すためには必須である。本セミナーではがん幹細胞の性状解析法を紹介し、それを標的とした治療戦略について解説する。



#### 講演② がん精巢抗原に着目したがん治療への応用 (15:40-16:10)

札幌医科大学 病理学第一講座 准教授 廣橋 良彦氏

【概要】がん根治を目指す上で、治療に抵抗性を示すがん幹細胞に対する治療戦略が必要となる。がん幹細胞には、正常臓器には精巣にだけ発現する「がん精巢抗原」という特異な分子群が発現する。今回、がん精巢抗原に着目することにより見えてきたがん幹細胞標的療法への期待を紹介する。



#### 講演③ 炎症回路とゲートウェイ反射による炎症性病態の制御 (16:10-16:40)

北海道大学 遺伝子病制御研究所 所長/教授 村上 正晃氏

【概要】炎症回路はケモカイン、増殖因子の産生機構として関節リウマチモデルにて発見された創薬標的である。最近、神経刺激が固有の血管内皮の炎症回路を活性化し免疫細胞を集積させるゲートウェイ反射が、多発性硬化症モデル病態に関連することが見出された。今回、炎症回路の発見と3つのゲートウェイ反射に関して紹介する。



#### 北海道バイオ企業の技術紹介 (16:40-17:00)

がんの発生・転移・進行の情報伝達役「エクソソーム」の高精度単離法

コスモ・バイオ株式会社 カスタマー・サービス部 西潟 久美子氏

【概要】エクソソームは50～150nmの細胞外小胞であり、内包するmiRNA、ncRNA、タンパク質などにより細胞間コミュニケーションを行うことでがんの転移や進展に関与し、診断対象や治療薬候補として注目されていますが、その単離法は確立されていません。本セミナーでは、エクソソーム表面のテトラスパンニンに対する抗体を利用した高精度なエクソソーム単離法をご紹介します。

## 参加申込

下記フォームへ記入し、**FAX (011-747-1911)** または**メール (kenkyu@noastec.jp)**でお送りください。※締切り：8月10日

## 参加申込書 [ ライフサイエンスセミナー ～がんと炎症 研究の最前線～ ]

会社(大学・機関)名	
電話・FAX	電話 / FAX
E-Mail	

ご所属・役職	お名前



## アクセス方法

- 地下鉄南北線「北18条」駅より 徒歩15分
- 構内循環バス (無料): 約10分乗車  
※北海道大学正門「事務局前」より乗車  
→「創成科学研究棟前」下車 徒歩5分
- 駐車場有り

## お問い合わせ

公益財団法人北海道科学技術総合振興センター

研究開発支援部 担当：工藤、鈴木

Email: kenkyu@noastec.jp

TEL: 011-708-6392

FAX: 011-747-1911

主催：ノーステック財団 / 共催：一般社団法人北海道バイオ工業会

協力：経済産業省北海道経済産業局、北海道、札幌市